

コンテナ貨物の片寄り検知

道トラック協 横転防止へ実証事業

北海道トラック協会(札幌)は18日、コンテナの積み荷の片寄りを検知する機器を会員企業のトレーラー1台に取り付け、横転事故防止につなげる実証事業を始めた。東京海洋大の渡辺豊教授(コンテナ輸送工学)の発明したシステムで、運転席の画面に横転の危険度を表示できる。検知システムを営業中に運用し、凍結路面でも安全に運転するのに役立つか検証する。

海上輸送で道内に運ばれてくるコンテナの内部は、けん



コンテナ内の片寄りを検知する仕組みを説明する渡辺教授。運転席に据え付けた小型モニターに、横転の危険を知らせる表示が出る

運転席画面に危険度表示

引するトレーラーの運転手が確認できない契約だ。重量は30t以上の場合もあり、極端に重心が片寄っていると、カーブで横転しかねない。北海道運輸局によると道内では昨年、トレーラーやトラックの横転事故が9件起きている。

今回使うシステムは、車体の揺れを検知するセンサーの情報が運転席のタブレット端末画面に映る。自動車のスピードメーターのような表示で、横転の危険度が0%〜100%の間で示される。運転手は情報を参考に道内を営業で走る。

実証事業は3月末まで、栗林海陸輸送(苫小牧)や重心検知協会(神奈川)と行う。渡辺教授は「凍結路の走行データを集め、精度の高いシステムをつくりたい」と話す。同協会の担当者は「トレーラーやトラックの安全性を高めるきっかけになれば」と期待する。